



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

ありがとう 滝井学舎



滝井専門部学舎での生活も残すところ4カ月となりました。新学舎への移転後、この学舎は解体され、跡地には新附属滝井病院が建設されます。=11月6日撮影

CONTENTS

特集 滝井学舎の追憶	2	病院	12
法人 平成25年度新入職員内定式	5	附属看護専門学校	16
新学舎建設工事進捗	7	卒後臨床研修センター	17
大学 7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン始動	8	同窓会	18
学生のページ 西医体結果	11	メディア情報	19
霜月祭 盛大に開催	11	お知らせ	20

特 集

滝井学舎の追憶

滝井地区に本学学舎が誕生したのは昭和34年12月10日です。既に滝井の地に存在していた附属病院(現附属滝井病院)の一部を改修して進められました。以降、法人本部を移転、施設を拡充し、現在に至ります。その歴史が平成25年4月の枚方新学舎に移転後に幕を閉じます。今号の特集ではこれまで半世紀の間、歩んできた滝井学舎の歴史を振り返ります。＝写真は昭和36年4月当時の滝井学舎

寄稿

滝井学舎の思い出

名誉教授(元理事・評議員) 森井 外吉

滝井学舎撤去の報で広報編集専門部会の求めに応じ、この学舎傍観19年になる私が古い思い出を述べる。ここに接触した最初は私が京大から出張剖検した際に、緑の少ないこじんまりした医大病院の小室で女医さんばかりの心温まるサービスを受けた。その頃(1955年前後)の剖検例数は年間平均18だったが、牧野から出張剖検した頃で56となり、教室滝井移転後、暫くしてから夜もするシステムにしたら120～200と著増し、81年に225と最多を記録した。49年設営の小剖検室を75年に学生も見学できるように改変した折、私は付設小浴室をシャワー室に変えようと試みたが、利用者達の反対で両者併設となり、経常費節減案がわずかながら設営予算オーバーの破目に終わった。臨床診断レベル向上と細胞診、術中生検もする病院病理部拡充で、最近の剖検例数は世間並みに激減した。在職中3回もこの病院へ入院した私は、その高い診療レベルを強く実感できて嬉しかった。

在職中の講義、実習指導は勿論、毎週の剖検会、プロベ会という臨床医へのサービスも1号館で実施したが、京阪電車沿線に住む私は毎月1～2回ぐらいは京大、旧阪大へ行けたので、図書館は利用しなかった。眼と手だけでも出来る仕事を60分余りもできる通勤電車内から徒歩数分以内に、私は旧3号館1階や新2号館南3階の教授室に入出入りできた。この便利だがトイレの性別利用にまごついた本学舎内でゆっくりリラックスできなかった私は、学生達も同じと察して82年に友親会館改修を考えたが、その3階以上の部屋が滝井駅プラッ

トホームから見られるというクレームで思い通りにはならなかった。旧2号館2階で毎週火曜にあった基礎教授昼食会で、多くの先生方と忌憚のない意見交換が気楽に長い間沢山できた。国際的に通用する実験医学的研究を滝井で行うには、温度、湿度、照明などがコントロールできて騒音、感染なども防げる実験動物飼育室と大型高級研究機器を気楽に共用できるシステムが、各教室が混在した研究棟内に必要だと考えられ、82～83年に新2号館オープンとなった。これで欧米レベルの実験的研究成果が出せると自ら感奮した。

写真は、シカゴの癌研所長室内の中国人執筆書額の大きなコピーがあった第二病理旧教室書庫内のCharles B. Huggins先生(1966年ノーベル生理学・医学賞受賞、1972年写)だが、とにかくみんなとともに滝井で動物実験に明け暮れた30年だった。



第二病理旧教室で撮影したHuggins先生

特 集

滝井学舎の歴史

昭和24年、大阪女子医科大学として学部開設が認可されてより、同26年3月学制改革による大学予科の廃止以来、本学は専門課程4年の大学として設置されましたが、一般教養を修める「進学課程」を持たず、他大学の進学課程を修めた者から本学専門課程への入学者を得ていました。しかし、同35年に進学課程(教養部)を設け、4年の医学専門課程と2年の医学進学課程からなる修業年限6年の大学医学部医学科となり、その後、当時の「基礎学部」を牧野から滝井に移転するのを機に、滝井学舎の歴史がはじまりました。以降も学舎の建設、増築が進み、昭和37年には附属病院旧本館を大幅に改造し、病院東側一体が学舎エリアとなりました。さらに、同年に学生会館(初代友親会館)、昭和43年に旧友親会館と現専門部学舎1号館、同56年に4号館(臨床研究棟)を相次いで建設し同58、59年、友親会館の新築移転、2号館の南棟と北棟をそれぞれ竣工しました。また、平成4年には附属滝井病院南棟(9号館)に臨床講堂を開設し、これが現在の滝井学舎の配置として続いています。

◆年表で見る滝井学舎の歴史

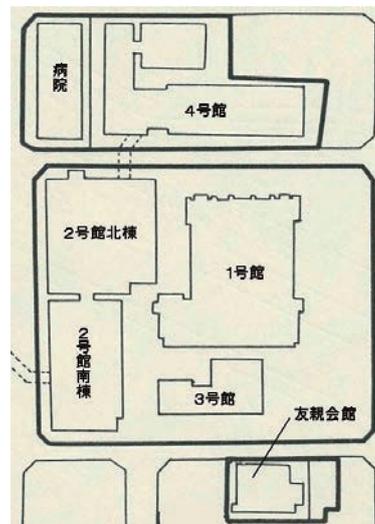
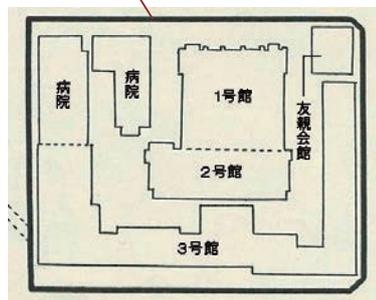
滝井学舎の歴史	年 月	大学に関する主な出来事
昭和48年頃の滝井学舎の全景 	昭和3年6月	大阪女子高等医学専門学校設立認可
	昭和7年4月	附属病院(現附属滝井病院)開設
旧友親会館の外観 	昭和22年6月	大阪女子医科大学設立認可、予科開設 7月——財団法人大阪女子医科大学と改称
	昭和24年3月	大阪女子医科大学学部開設認可
基礎学部を滝井病院本館(現専門部学舎3号館)に移転 法人事務所を滝井学舎に移転 基礎学部の滝井移転に伴う附属病院旧本館改造工事完了 学生会館竣工 旧友親会館竣工 専門部学舎1号館竣工 附属図書館本館新設 専門部学舎4号館竣工 新友親会館(学生会館)新築移転 専門部学舎2号館南棟竣工 専門部学舎2号館北棟竣工 附属滝井病院南棟(9号館)に臨床講堂竣工	昭和26年2月	学校法人への組織変更認可 3月——大阪女子医科大学予科廃止
	昭和27年2月	新制大阪女子医科大学設置認可 3月——大阪女子高等医学専門学校廃止
	昭和29年12月	関西医科大学と改称、男女共学制実施
	昭和34年10月	関西医科大学学位規程制定 12月
	昭和35年1月	医学進学課程(教養部)設置認可
	昭和36年3月	大学院(医学研究科博士課程)設置認可
	昭和37年7月	基礎学部の滝井移転に伴う附属病院旧本館改造工事完了
	昭和37年8月	学生会館竣工
	昭和42年6月	旧友親会館竣工
	昭和43年9月	専門部学舎1号館竣工
	昭和47年9月	附属図書館本館新設
	昭和56年5月	専門部学舎4号館竣工
	昭和58年3月	新友親会館(学生会館)新築移転
	昭和58年4月	専門部学舎2号館南棟竣工
	昭和59年11月	専門部学舎2号館北棟竣工
平成4年4月	附属滝井病院南棟(9号館)に臨床講堂竣工	
平成18年1月	附属枚方病院(現本院)開設	
(平成25年4月)	枚方新学舎開設予定)	
		完成当初の1号館 

特 集

昭和中期～後期の大改造で発展 滝井学舎の変遷

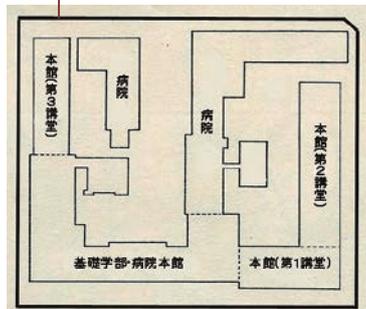
滝井学舎の歴史をみると、基礎学部が移転した昭和34年から同59年にかけて敷地内各所で建物の建設、解体、改築が行われ、発展を遂げてきました。一方、こうした工事が一段落した昭和59年以降は附属病院南館に臨床講堂を建設(平成4年)しましたが、東側の学舎エリアでは28年間、学舎の建設は行われていません。ここでは図をみながら学舎エリアの変遷をたどってみましょう。

②昭和53年当時の配置図です。昭和43年に、滝井地区に初めて本格的な専門部学舎として1号館が建設された後、同館に接して旧2号館が増築され、そこに大学本部・図書館などが移転しました。



③昭和63年当時の配置図です。3号館の東から北側と西側部分、さらに旧友親会館を取り壊し、西側の跡地に2号館の北棟、南棟を建設、旧2号館は1号館に統合されました。また、研究棟である4号館を道路を隔てた北側に建設し、さらに南側の道路を挟んだ場所に新友親会館が新設されました。

①昭和35年当時の滝井学舎の配置図です。附属病院の一部が基礎医学部校舎となりました。



学舎跡地は再び新附属滝井病院として生まれ変わります

前号 (Vol.18) で既報の通り、大学が枚方新学舎へ移転した後は滝井学舎を取り壊し、その跡地に地下1階、地上7～8階、延床面積約2万～2万5千㎡の新しい病院(仮称：本館)を建設します。この本館は平成28年4月にオープン予定で、外来部門、手術室(13室)、集中治療室、及び外科系を中心とする約300床の病室を配置し、急性期医療が充実します。さらに、リニューアル計画の最終段階では、本館完成後、現在の附属滝井病院正面玄関がある建物を全て取り壊し、平成29年秋には、その跡地に70m×100m(サッカーの公式グラウンドの広さに相当)の極めて広い緑豊かなホスピタルガーデンを建設する予定です。

学生が集う1階ホール

写真の場所は専門部学舎1号館1階ホールです。学生用の掲示板があるこの場所は「医学の父」と呼ばれるヒポクラテス(ギリシャ)の「誓い」の壁面文字(写真左上)と、「みのり」の像(写真右、山畑阿利一作、千葉洋彦・加多子両氏から寄贈)が設置されている場所です。この場所は学生たちの談笑や、クラブ活動の練習の場としても活用されています。そのような光景が見られるのも残り数ヶ月です。

*「みのり」の像は枚方新学舎に移設される予定です。



放課後に学生が談笑する光景もいよいよ見納めです

法 人

◆8～10月の主な行事

日程	行事名	場所
9～10月	目標管理制度考課者研修	専門部学舎他
10月2日	平成25年度新入職員内定式	附属枚方病院

目標管理の適正運営に向けて 考課者研修を実施



一般考課者研修の冒頭の挨拶で、期待を込めたメッセージを送る神崎秀陽総務担当理事＝9月15日

目標管理制度考課者研修が9、10月に滝井地区および枚方地区において開催されました。一般考課者研修は9月8、15、22日と10月20日の計4日程で行われ125名が、また上級考課者研修は10月13、27日に実施され24名が出席しました。

一般考課者研修は、昨年度実施した目標設定・面接手法・評価適正度についての考課者スキルの均一化などに引き続き、自部門(課)の目標立案・実施方法や被考課者の人財(人材から人財へ)育成と職務へのモチベーションアップの手法の習得に向けて「目標管理の適切な運営」「部門(課)目標の共有化と被考課者を考慮した面接実習」「プロセス管理と考課について」といった内容で行われました。

上級考課者用研修は、目標管理制度をどのように捉え、どう生かしていくかという観点から「大学ビジョンと目標管理制度について」「自部署(部門)の目標達成に向けたリーダーシップと実施計画立案」「部下育成と考課のポイント」などをテーマに実施されました。

平成25年度新入職員内定式開催

今年度から初めての試みとして、来春入職予定の事務員、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の内定式が、10月2日(火)午前10時から附属枚方病院13階講堂で開催されました。冒頭に、澤田敏常務理事から激励の挨拶の後、内定証書の交付が執り行われました。内定者には、澤田常務理事から一人ずつ内定証書が手渡され、内定者は本学へ入職する思いを新たにしている様子でした。交付後には、内定者から、自己紹介と本学への志望動機や学生から社会人へと向かっていく力強い決意表明が述べられました。最後には、職名ごとに澤田常務理事を囲んでの記念撮影が行われ、内定式は終了しました。引き続き、場所を合同カンファレンスルームに移し、来春には身近な先輩となる若手職員に参加願い、同じテーブルを囲んでの昼食会が開かれ、職場や社会人生活に関する会話が和やかに弾んでいました。

今回出席した内定者(事務員7名、薬剤師17名、診療放射線技師4名、臨床検査技師7名、臨床工学技士2名)は他職種の内定者とともに、来年4月に入職し、各職場へ配属される予定です。

また、内定式に先立ち、9月12日(水)午後4時から「内定者施設見学会」が附属枚方病院で行われ、事務員内定者が半年後に自らが働く職場を見学しました。本会は同期入職者の顔合わせを兼ねて、採用試験でしか本学を知らない内定者に対し、より本学への理解を深めてもらうことが目的です。今村洋二附属枚方病院院長の挨拶の後、枚方病院や現在建設中である枚方新学舎の概要説明が行われたほか、院内各施設を見学しました。内定者からは、「実際の職場を見ることができていい刺激になった」「自ら動いて積極的に仕事に取り組みたい」といった前向きな意見が聞かれました。



内定証書を手渡す澤田常務理事(右から2人目)



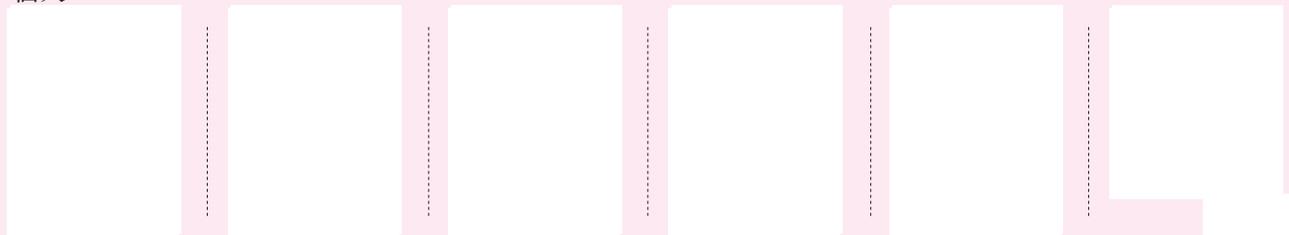
施設見学会で説明を受ける事務員の内定者たち

法人

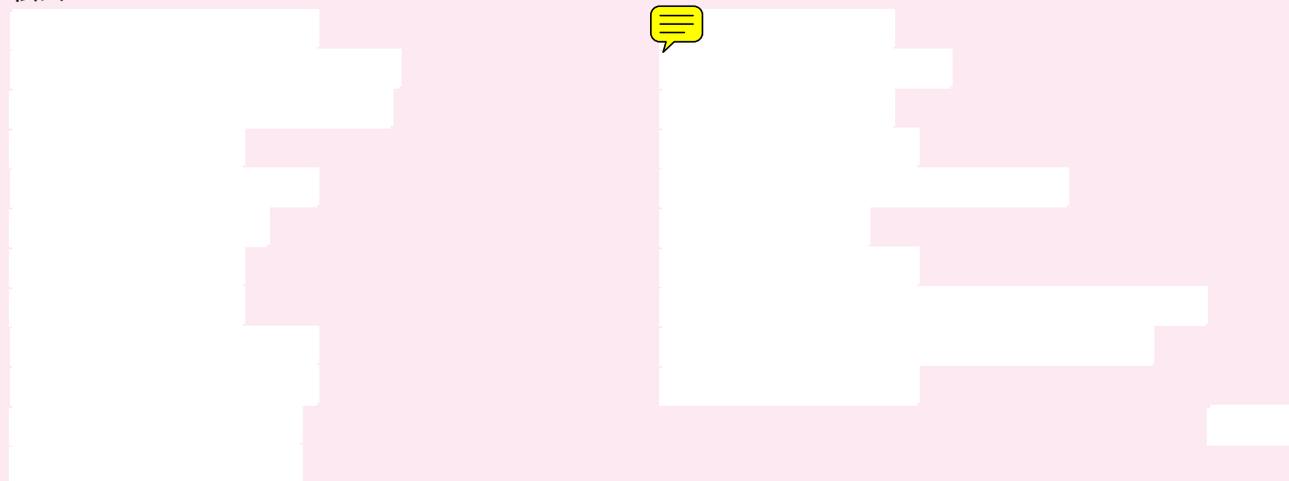
寄付金

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金として平成24年8月1日から平成24年10月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名（五十音順）を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。
 なお、募集当初から平成24年10月31日までの寄付金累計額は6億8,498万8千円です。

<個人>



<法人>



関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金のご案内

1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

2. 募集金額

1口10万円
 1口未満でも申し受けます。

3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、お申込ください。寄付申込書は下記の3種類がありますので、いずれかをご提出ください。
 ・個人の場合：特定公益増進法人申込書

・法人の場合：

- (1) 特定公益増進法人申込書
- (2) 受配者指定寄付金申込書

4. お問い合わせ先

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業
 募金委員会事務局
 〒570-8506
 大阪府守口市文園町10番15号
 TEL：06-6993-9556(直通) FAX：06-6993-5221
 E-mail：bokin@takii.kmu.ac.jp
 URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

寄付者銘板にお名前が刻まれます

新しいキャンパス内に寄付者銘板を設置し、ご寄付いただきました皆様のご芳名を末永く顕彰させていただきます(金額は掲額いたしません。ご芳名のための掲額です)。

法 人

寄付金に係る所得税減税措置のご案内

最高で寄付金額の約4割が戻ってきます！

個人が大学へ寄付をした場合、確定申告により所得税の還付が受けられます。この所得税優遇措置には、所得金額から控除される「(A)所得控除制度」と、税額から直接控除される「(B)税額控除制度」の二種類があり、寄付者の選択によりどちらか一方の制度を活用できます。

次の計算式により控除され、既に納付している所得税との差額分が還付されます。

(A) 所得控除 所得金額から控除を行った後に税額が算出されます。

$$\left(\begin{array}{|c|} \hline \text{所得金額} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{控除分} \\ \text{寄付金額} - 2,000\text{円} \\ \hline \end{array} \right) \times \text{税率} = \begin{array}{|c|} \hline \text{税額} \\ \hline \end{array}$$

※寄付金額は、総所得金額等の40%が限度

(B) 税額控除 算出された税額から直接控除されます。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{税額} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{控除分} \\ \text{(寄付金額} - 2,000\text{円)} \times 40\% \\ \hline \end{array}$$

※寄付金額は、総所得金額等の40%が限度
※税額控除額は、所得金額の25%が限度

<還付される目安金額>

(円)

課税所得額	3,000,000		5,000,000		8,000,000		
	控除制度	所得控除	税額控除	所得控除	税額控除	所得控除	税額控除
寄付金額	10,000	800	3,200	1,600	3,200	1,900	3,200
	50,000	4,800	19,200	9,600	19,200	11,100	19,200
	100,000	9,800	39,200	19,600	39,200	22,600	39,200
	500,000	49,800	50,600	99,600	143,100	114,600	199,200
	1,000,000	83,400	50,600	199,600	143,100	219,700	301,000

注：ご参考としての目安金額です。個々の所得状況により異なりますのでご了承ください。

減税手続きについてのお問い合わせは、関西医科大学募金室まで。 TEL 06-6993-9556

新学舎情報

新学舎建設 順調に進捗

枚方新学舎建設工事はいよいよ大詰めを迎えました。既に工事用足場が全て解体となり、建物の全体像が披露されました。京阪電車車内からも外観をはっきりと見ることができます。現場では随時、各種検査をクリアしているほか、設備や外構工事も順調に進んでいます。

淀川側から見た学舎の全体像
(右奥は附属枚方病院)



内装工事も順調に進んでいます
(写真は4階自習室前の通路)



大 学

◆8～10月の主な行事

日程	行事名	場所
9月1日	大学院(前期)入試・論文語学博士試験	専門部学舎
9月5日	7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン協定書調印式	シェラトン都ホテル大阪
9月25日	平成24年9月学位記授与式	専門部学舎

日程	行事名	場所
9月28日	解剖体慰霊碑供養	建仁寺
10月21日	慈仁会全国懇談会	教養部学舎 専門部学舎
10月25日	実験動物慰霊祭	専門部学舎

7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン始動

文部科学省採択事業「7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン」の協定書調印式が9月5日(水)午後6時からシェラトン都ホテル大阪で開催され、本学を含む7大学の関係者が出席しました。このプランは本学と近畿大学(医学部、薬学部)、大阪市立大学、神戸大学、兵庫医科大学(いずれも医学部)、大阪府立大学、神戸市看護大学(いずれも看護学部)の阪神地区7大学8学部が連携し、高度ながん診療と研究を実践できる人材養成の基盤整備を推進することが目的です。

調印式では、プロジェクトの本学コーディネーターである山下敏夫理事長・学長が出席、協定書にサインしました。

今後は各大学が連携して「教育改革」「地域医療」「研究者養成」の3部門で、人材養成の基盤整備に取り組みます。このうち本学は神戸大学、近畿大学薬学部、神戸市看護大学とともに地域医療部門に所属し、地域の医療機関で活躍するがん医療専門医を養成するとともに、がん医療情報の共有を図り、多職種が連携した広域医療ネットワーク構築を目指します。また、調印式に先立って同プランの「第1回組織運営委員会」が開かれ、事業概要のほか、各部門で展開される活動の詳細が報告されました。



協定書を手にする山下理事長・学長(左から3人目)ら各大学コーディネーター

本学のプロジェクトメンバー

- ◆大学コーディネーター
山下敏夫理事長・学長
- ◆実行委員
野村昌作教授(内科学第一講座)、権雅憲教授(外科学講座)、谷川昇教授(放射線科学講座)、柳本泰明診療講師(外科学講座)、河本慶子助教(医学教育センター)

本学大学院に設置される4コース

「7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン」では、各7大学の得意分野を活かす以下の専門コースを開設します。本学では平成25年4月から以下の4コースを設けます。

■腫瘍外科専門医養成コース

養成する人材像	大学院4年間で高度な臨床能力と研究能力を併せ持つ外科医を養成する。膵臓癌をはじめとする難治癌の病態解明を目指す研究で学位を取得するとともに、先進の外科手術手技と先端医療の基礎知識を有するがん専門医を養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果	外科手術手技と研究能力に優れた腫瘍外科医が養成され、がん治療の成績向上に貢献することが期待される。
教育内容の特色等	がんの発生学からがん進展にいたる病理学まで基礎的な知識の集約、基礎研究を経験するとともに、腫瘍外科医としての臨床修練を行う。

■地域がん医療貢献型臨床腫瘍学コース

養成する人材像	がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、地域基幹病院において均てん化がん医療を実践できる薬物療法専門医を養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果	将来所属する当該臨床科において、癌腫に関する病態を多角的に理解し、その上で治療方針を英断的に決定し、特に化学療法の適応を正確に判断し、緩和医療との見極めが客観的にできるようになる。
教育内容の特色等	初期2年間で、がんの発生学からがん進展にいたる病理学まで基礎的な知識の集約・基礎研究を経験する。後期2年間では、臓器別にがん治療専門家との集学的治療を体験する。

■地域がん医療貢献型放射線腫瘍学コース

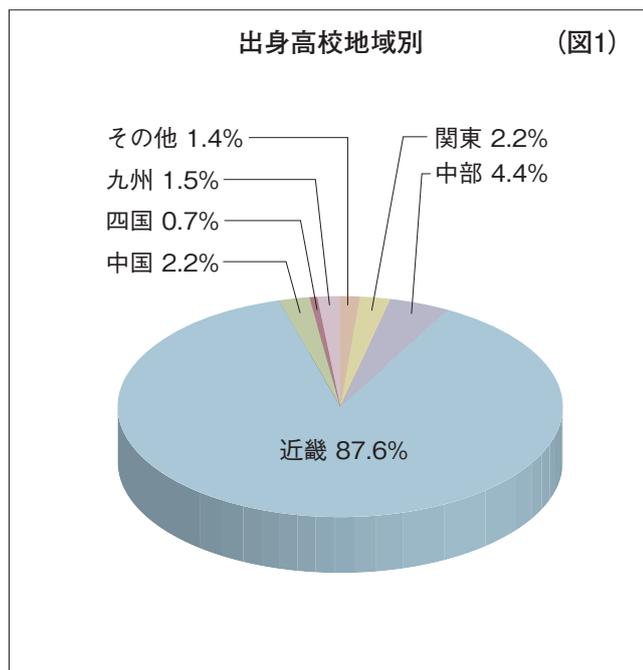
養成する人材像	がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、地域基幹病院においてがんに対する放射線治療を中心とした集学的治療の実践と革新的がん治療を行う放射線治療専門医を養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果	癌腫に関する病態を多角的に理解し、がん治療の全相における放射線治療に精通した放射線治療専門医資格の取得と、がんに対する放射線治療に関する基礎的・臨床的リサーチワークの指導者をめざす。
教育内容の特色等	初期2年間で、がんの発生学からがん進展にいたる病理学までの基礎的な知識の習得および基礎研究を経験する。後期2年間では、標準的放射線治療に加え全身化学療法を含む集学的癌治療を経験する。

■地域医療貢献型先進的がん治療学コース

養成する人材像	がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、標準的集学治療の実践と革新的ながん治療の開発研究を行うがん治療専門医を養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果	癌腫に関する病態を多角的に理解し、がん治療の全相における標準治療に精通したがん治療認定医の取得と、がんに関する基礎的・臨床的リサーチワークの指導者をめざす。
教育内容の特色等	初期2年間で、がんの発生学からがん進展にいたる病理学まで基礎的な知識の集約・基礎研究を経験する。後期2年間では、細胞免疫療法や移植療法などの先進的がん治療を経験する。

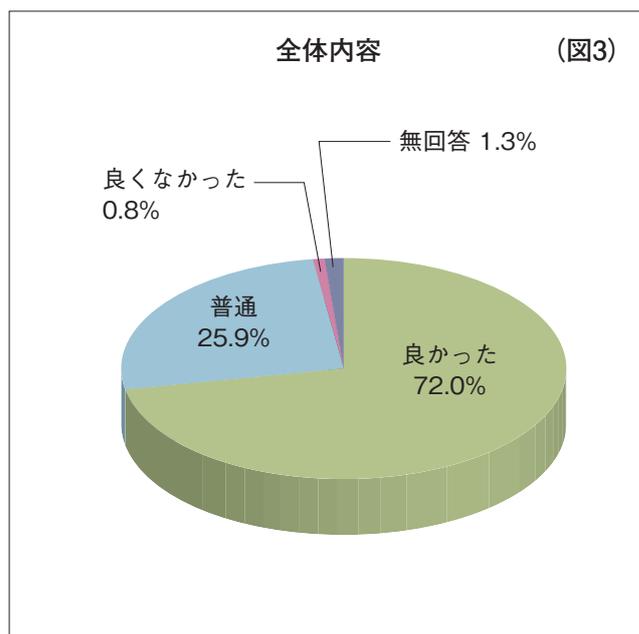
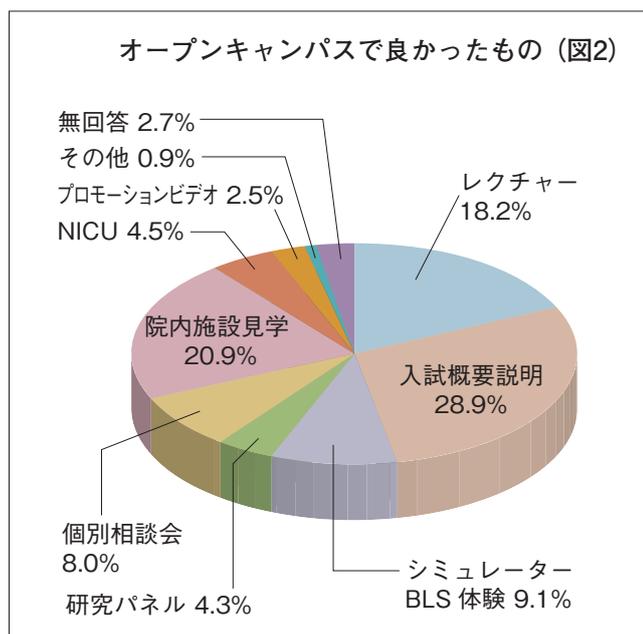
*詳細はプロジェクトのホームページ(<http://www.med.kindai.ac.jp/ganpro/>)をご覧ください。

7割が「良かった」と回答 オープンキャンパスアンケート結果



平成24年度のオープンキャンパスは本紙Vol.18(8月30日発行)で既に掲載したとおり、8月18日(土)に本学附属枚方病院において開催され、392名の参加者を得て盛況裡に終了しました。これは前年度に比べると約2倍の数にのぼります。当日にアンケートを実施し、239名(保護者102名を含む)から回答がありましたので報告します(実質回収率は67.3%)。

参加者の出身高校地域別(図1)は、近畿地区120名(87.6%)が最も多く、中部地区6名(4.4%)と続いています。近畿地区の府県の内訳は大阪61名、京都27名、兵庫19名、奈良9名、和歌山4名の順となっています。オープンキャンパスで良かったもの(図2)では「入試概要説明」が127名(28.9%)と最も多く、「施設見学」が92名(20.9%)、「レクチャー」80名(18.2%)となっています。全体内容(図3)は「良かった」が172名(72.0%)を占め、「普通」と答えた62名(25.9%)を合わせると、234名(97.9%)の結果となりました。この結果から、参加した多数の方に満足していただいたオープンキャンパスになったと思われます。来年度は新学舎に移転しておりますので、今年度以上に参加者が満足していただけるよう、企画などを検討していく方針です。



平成24年度解剖体慰霊碑供養を挙行

ご冥福をお祈りする山下理事長・学長(手前右端)ら出席者



9月28日(金)午前11時から「平成24年度解剖体慰霊碑供養」が建仁寺塔頭正伝永源院で挙行されました。解剖体慰霊碑供養は、自らのご意志で無条件・無報酬の篤志として、医学部学生の基礎医学教育に必須な人体解剖学の教育と医学研究の発展のために、自身のお体を提供していただいた御霊を供養する儀式です。この日は新仏入魂と供養の儀が執り行われ、山下敏夫理事長・学長、平野利夫白菊会会長をはじめとした学内や白菊会の関係者9名が出席し、感謝の気持ちを込めてご冥福をお祈りしました。

大 学

第38回実験動物慰霊祭挙行

「第38回実験動物慰霊祭」が10月25日(木)午後1時から、専門部学舎2号館遺伝子治療室で執り行われました。山下敏夫学長、実験動物飼育共同施設の藤澤順一施設長ら関係の教職員113名が参列し、無宗教で行われました。冒頭の黙祷の後、藤澤施設長が慰霊の言葉を捧げ、続いて山下学長はじめ参列者が順に献花を行い、医学研究のため犠牲になった尊い動物の御霊に対して哀悼の意を表しました。



尊い動物の御霊に対して哀悼の意を表した慰霊祭

慈仁会全国懇談会開催

平成24年度慈仁会全国懇談会が10月21日(日)午前10時30分から牧野キャンパスで1学年保護者82名、午前11時から滝井キャンパスで2～6学年保護者328名が参加して開催されました。牧野キャンパスではクラス懇談会、個別懇談会を中心に、学内の図書館および大講堂の天井画「双龍鳳凰図」の見学が行われました。滝井キャンパスでは、友田幸一専門部教務部長による6年一貫新カリキュラム説明の後、クラスアドバイザー教員とのクラス



新カリキュラムについて説明する友田教務部長

別懇談会、個別懇談会を中心に、また学内の図書館及びチュートリアルルームの見学が行われました。

平成24年9月学位記授与式を挙行

9月25日(火)午後3時30分から、専門部学舎1号館5階大会議室において「平成24年9月学位記授与式」が挙行され、9名に博士(医学)の学位記が授与されました。式では山下敏夫学長から学位取得者一人ひとりに学位記が手渡され、がっちり握手を交わしました。



山下学長(右)から学位記を手渡される学位取得者

大学院(前期)入試・論文博士語学試験実施

平成25年度前期大学院博士課程入学試験と論文博士語学試験が9月1日(土)午前9時30分から専門部学舎で実施され、外国語試験と専攻別授業科目試験が行われました。大学院博士課程には17名(このうち臨床系社会人コース(長期履修制度)3名、がんプロフェッショナル履修コース4名)が受験し15名が、また論文博士語学試験には3名が受験し、2名がそれぞれ合格しました。

平成25年度 大学院(後期)入試日程

【募集人員】

- ・ 医科学専攻(代謝機能制御系、高次機能制御系、生体応答系、社会環境医療系)計30名(前期、後期の合計)
- ・ 先端医療学専攻(修復医療応用系、ブレインメディカルサイエンス系)計20名(前期、後期の合計)

【願書受付期間】

- ・ 平成24年11月27日(火)～平成24年12月27日(木)
(郵送する場合は 受付期間内に必着のこと)

【選抜方法】

- ・ 外国語(英語)筆記試験(午前9時30分～正午)
- ・ 専攻別授業科目(午後)

【実施期日】

- ・ 平成25年1月19日(土)

【試験会場】

- ・ 外国語(英語)：専門部学舎1号館4階「第4実習室」
- ・ 専攻別授業科目：当日告知

【合格発表日】

- ・ 平成25年2月15日(金)

※詳細は募集要項またはホームページをご参照ください。

学生のページ

第64回西医体で学生が熱戦を展開

「第64回西日本医科学生総合体育大会(西医体)」が7月27日(金)から8月17日(金)に開催され、「関西」「中国・四国」「九州・山口」「東海・北陸」の4ブロックから44校が参加、21競技(スキーは平成24年3月に既に実施)に熱戦を展開しました。西医体は、西日本所在の大学の医学部および医科大学の医科学生相互の親睦を図るために実施している医学生のスポーツの祭典です。代表主管校はブロック制による持ち回りで、今年は岡山大学が務めました。本学の総合順位は18位で、各競技では陸上競技女子がフィールド部門でトップに立つなど、学生が活躍しました。8位入賞以上の成績は下記の通りです。

種 目		氏 名	順 位	種 目		氏 名	順 位	
ソフトテニス	男子	団体	2位	陸上競技	女子		1位	
バドミントン	男子	団体	ベスト8			砲丸投		5位
	男子	個人シングルス	2位					6位
柔道	男子	団体	ベスト8			円盤投		2位
陸上競技	男子	400m	6位			やり投		4位
		棒高跳	4位					5位
		円盤投	3位	水泳	総合	—	6位	
		やり投	5位		100mバタフライ		1位	
	総合	—	2位		200mバタフライ		2位	
	フィールド部門	—	1位		100m平泳ぎ		4位	
	女子	800m	5位		400m個人メドレー		4位	
		100mH	5位		800mリレー	—	6位	
			6位		400mメドレーリレー	—	4位	
		400mH	5位		男子	100mバタフライ		4位
			6位			50m背泳ぎ		4位
		4×100m	—			3位	200m個人メドレー	
			—	1位		剣道	男子	
		ハンマー投		4位	女子		団体	ベスト8
			5位					

霜月祭 盛大に開催



本学の学園祭「霜月祭」が11月3日(土)、4日(日)に牧野キャンパスにおいて開催されました。今年のテーマは『AGO～愛・元気・思いやり～』で、近隣の学生や高校生、地域の方々が多数来場しました。

会場は「災害医療」をテーマに、東日本大震災の際の災害医療に関するパネル展示や、災害時の対処法など

の体験コーナーを設けた「医学博」や、学生たちが趣向を凝らした各種模擬店、学生バンドによる音楽演奏、学生の大喜利大会「ダイナマイト関西医大」、総額150万円の豪華商品が当たるビンゴ大会などで盛り上がったほか、お笑いタレントの「ガレッジセール」「GAG少年楽団」のステージが繰り広げられました。なお、毎年の恒例だったバザーは諸事情により、やむなく中止しましたが、代わりに立ち上げた新企画の「縁日」では射的やブロック落とし、コイン投げなどのゲームが人気を集めました。また、多くの人に献血のご協力をいただきました。



医学博では災害時の対処法などについて解説しました。

病 院

◆8～10月の主な行事

日程	行事名	場所
8月1日	メンタルヘルス講演会	附属枚方病院
8月16日	合同クリニカルパス大会	附属3病院(テレビ中継)
8月29日	こども病棟夏祭り	附属枚方病院
9月1日	肝臓病教室	附属滝井病院
9月1,2日	緩和ケア研修会	附属枚方病院
9月3～14日	絵画・写真コンテスト展示会	附属枚方病院
9月6日	医療安全講演会	附属枚方病院
9月7日	NST大会	附属枚方病院
9月11日	自衛消防隊研修大会	守口市門真市消防組合
9月14日	DPCセミナー	附属枚方病院

日程	行事名	場所
9月15日	河北医師会懇談会	リーガロイヤルホテル(大阪)
9月15日	オータムコンサート	附属枚方病院
9月29日	市民公開講座(看護部企画)	附属枚方病院
10月6日	市民公開講座	香里病院
10月10日	北河内循環器救急医療フォーラム	附属枚方病院
10月13日	寝屋川市医師会との懇談会	香里病院
10月20日	災害訓練	附属枚方病院
10月20日	災害訓練	附属滝井病院
10月21日	日曜マンモグラフィ健診	香里病院
10月30日	医療安全講習会	附属枚方病院

活発な意見交換が繰り返される会場



第5回合同クリニカルパス大会を開催

8月16日(木)午後5時30分から、第5回合同クリニカルパス大会が附属枚方病院13階講堂、附属滝井病院南館2階臨床講堂、香里病院8階会議室の3会場をテレビ会議システムで結んで開催されました。高屋淳二附属滝井病院クリニカルパス推進委員会委員長(小児科学講座講師)による総司会のもと、各病院からそれぞれ発表があり、枚方病院70名、滝井病院50名、香里病院53名の参加者が熱心に聞き入るとともに、活発な質疑応答が行われました。

枚方、滝井の2病院で大規模地震想定の大規模災害訓練実施

10月20日(土)に枚方、滝井の附属2病院において、災害訓練が実施されました。

枚方病院では6回目となる訓練で、午前10時に大規模地震(南海・東南海地震)が発生。病院も一部被災し、近隣建物が倒壊して多数の負傷者が出たとの想定で行われました。医師、看護師、医療技術職、事務職ら病院スタッフのほか、枚方寝屋川消防組合に加え、健康医療都市ひらかたコンソーシアムの一環として枚方市、市立枚方市民病院、枚方公済病院、附属看護専門学校、摂南大学薬学部、ECCアーティスト専門学校のほか、市民や病院登録のボランティアの協力を得て実施され、総勢400名以上の参加者により、日常における災害への意識を高めました。

訓練では地震発生直後、院内の被災状況の収集が行われました。また消防指令センターから負傷者受入れ要請の第一報を受け、災害対策本部が立ち上がりました。災害現場では救急隊による患者の救助や現場トリアージ、DMATによる医療活動が行われました。受入れ側の病院では重症度・緊急性により分別するトリアージの後、各ゾーンへの患者搬送や誘導、模擬患者の治療が行われました。また連携病院への搬送、情報伝達といった訓練も実施されました。患者役のボランティアが特殊メイクで本物のけが人を装ったほか、消防車両16台を導入するなど、本番さながらの臨場感あふれる雰囲気、スタッフからは大声を張り上げて懸命に活動していました。また、炊き出し訓練では枚方市赤十字奉仕団の皆さんにより、豚汁やおにぎりが振る舞われました。

附属滝井病院は7回目の訓練で午前9時45分から、医師、看護師をはじめとする職員、看護専門学校学生、近隣消防機関の隊員ら約200名の参加により「紀伊半島

沖を震源とした南海地震が発生し、守口市でも震度6弱を観測したが、当院の被害は軽微であり、災害拠点病院としての活動は可能であることから、近隣で負傷した約40名の住民の受け入れを行う」ことを想定して実施されました。

訓練では地震発生直後、消防指令センターから負傷者受入れ要請の第一報があり、院内1階に災害対策本部が立ち上げられ、災害対策本部長の岩坂壽二病院長の指示により緊急医療体制が敷かれました。トリアージポストでは重傷度に応じて負傷者の治療優先順位を選別し、それぞれ赤、黄、緑のゾーンで治療が行われました。当日は台風21号も過ぎ去って快晴、まさに「訓練日和」になり、訓練参加者からは「訓練を通じて、多くの課題があることに気づき、良いきっかけになった」「救命医ではないため、日常診療ではできない経験ができ、良かったと思う」といった様々な声が聞かれました。

また、地域の危機管理体制の充実強化に積極的に取り組む守口保健所からも医師、職員5名が見学を訪れ、訓練を絶賛するとともに、地域の関係各機関への案内や連携などについての提言もありました。



慌しく負傷者が運び込まれる附属枚方病院の訓練の様子



附属滝井病院の訓練で懸命に救急活動を行うスタッフ

病 院

平成24年度河北医師会懇談会

貴重な交流の場となった河北医師会懇談会



9月15日(土)午後5時からリーガロイヤルホテル(大阪)にて「平成24年度河北医師会懇談会」が開催されました。今年度は7市6医師会との合同懇談会として開催し、本学教職員を含め245名が出席、守口市医師会の生野弘道会長から挨拶をいただき、開会しました。

学術講演会では内科学第二講座の塩島一朗教授による「心房細動に対する抗凝固療法」、放射線科学講座の谷川昇教授による「最新画像診断に基づく画像ガイド下低侵襲性治療」の2題の学術講演が行われました。また、懇親会においては、各地区医師会との情報交換の場として地域医療との円滑な連携を図るとともに、相互の信頼を築く上で大変貴重な交流の場として懇親を深めました。

附属枚方病院

患者さん用のがん情報と連携登録医情報検索端末を設置

8月1日(水)に附属枚方病院1階入院センター・がん相談支援窓口のすぐ横に「がん情報」と「連携登録医紹介」のコーナーを設置しました。キオスク端末形態のパソコンにより、患者さんが簡単に「がんの情報」や当院と連携を密にいただいている「連携登録医」の情報をタッチパネルで検索できるコーナーです。患者さんへのサービス向上と、がん診療連携拠点病院としての機能充実と連携登録医との関係向上に寄与することを目的に設置しました。皆さんも一度手に触れていただき、患者さんにもぜひPRしてください。



設置された、がん情報と連携登録医情報検索端末

病気のことを忘れ、祭りを楽しむ子供たち



こども病棟夏祭り開催

8月29日(水)午後6時から、恒例となったこども病棟夏祭りが開催されました。開始直前に雨が降り出して屋内での開催となりましたが、綿菓子やポップコーン、ヨーヨーすくい、くじ引きなどの模擬店で、入院患者の子供たちやご家族に楽しいひとときを過ごしていただきました。特に作りたてのポップコーンや綿菓子には子どもたちも大喜びでした。また、今年もボランティアとして駆けつけていただいた「笑顔文字」で有名な、やまだとしおさんによる似顔絵コーナーは、子どもたちに大変好評でした。

絵画・写真コンテスト展示会を実施

9月3日(月)～14日(金)に「第2回リリー・オンコロジー・オンキャンパス・ジャパン～がんと生きる、わたしの物語～」絵画・写真コンテスト展示会が附属枚方病院2階ドトールコーヒー前のエントランスで開催されました。がんと診断された方やその家族、支援者が「がんと生きる、わたしの物語」をテーマにした絵画・写真のコンテストで受賞した作品(レブリカ)が展示されました。作品からは、がんの宣告を受けてもなお、希望を捨てず前向きに生きる姿やがんの経験を通して変化のご自身の生き方など、作品に込められたストレートな思いが伝わってきました。



展示期間中は多くの方が作品を觀賞してくださいました

参加者とともに手指消毒の実習も行われました



看護部企画による市民公開講座の開催

9月29日(土)午後2時から附属枚方病院13階講堂において、看護部主催による市民公開講座が開催され、43名が参加しました。今回のテーマは「知ろう、防ごう 食中毒」で香里病院の廣原淳子副病院長が「食中毒って何?」、感染制御部の大石努看護師長が「食中毒と感染予防」、栄養管理部の吉内佐和子管理栄養士が「家庭でできる食中毒予防」とそれぞれ題して講演、手指消毒の実習や日常生活の場面が取り上げられ「内容がわかりやすい」など好評でした。

病 院

緩和ケア研修会を開催

第4回緩和ケア研修会が9月1日(土)、2日(日)の2日間、附属枚方病院13階講堂において、企画責任者である麻酔科学講座・同病院緩和ケア科の増澤宗洋講師をはじめ他病院を含む計11名の講師を招き、医師22名、コメディカル13名の参加を得て開催されました。この研修会は、がん診療連携拠点病院の認定には必須の事項で、緩和ケア学会が示す「PEACEプロジェクト」に従った、全モジュールで12時間以上、遅刻や途中退席は認めないという決まりがある厳しい内容のものです。がん診療連携拠点病院でがん診療に携わる全ての医師は、今後5年以内に緩和ケア研修を修了することが目標とされており、医師にとって重要な研修会となっています。参加者は2日間、熱心に受講し、講義やロールプレイを通じお互いの知識を深め合い、最後は今村洋二病院長から全員に修了証書が授与されました。



グループ討議を中心とした活発な意見交換を行った研修会

演奏を楽しみ参加者の皆さん



オータムコンサート開催

臨床検査部の吉田多加代主任の電子オルガン演奏によるオータムコンサートが9月15日(土)に開催されました。第1部は午前11時から附属枚方病院2階ドトールコーヒー前のフロアで外来患者・家族合わせて約50名が、第2部は午後2時30分から同院13階講堂において、約100名の入院患者・家族の方々がそれぞれ集い、テレビでお馴染みの「情熱大陸」のテーマ曲やディズニーの曲などが演奏されました。1台の電子オルガンだけとは思えない大迫力の演奏に、患者さんも手や足でリズムを取りながら楽しむなど、憩いのひとときを過ごしました。

附属滝井病院

自衛消防隊研修大会で男性看護師大健闘

9月11日(火)に守口市門真市消防組合で開催された自衛消防隊研修大会(主催：守口門真防火協会)の屋内消火栓競技の部に附属滝井病院の男性看護師チーム(チーム名：ファイアウォーズ)が出場しました。朝から降っていた雨もあがり、曇り空の中、22チームが日頃鍛えた技、タイムを競い合いました。わが滝井病院チームは、平均年齢23歳と若さあふれるチームで、入賞は取り逃がしたものの、本番では初出場ながら絶妙なチームワークを発揮し大健闘しました。指揮者の看護師は「みんな本当に良く頑張ってくれた。初出場で固くなり、要領も十分わからなかった。機会があれば、是非またリベンジしたい」と口惜しさも滲ませるとともに「長い間応援していただいた方々にも深く感謝します」と結びました。皆さんの熱いご声援ありがとうございました。



奮闘するファイアウォーズのメンバー

活発な意見交換が繰り広げられた懇談会



登録医の先生方との懇談会開催

7月14日(土)午後4時から、リーガロイヤルホテル(大阪)において「滝井病院と登録医の先生方との懇談会」が開催され、40名の登録医の先生方が出席されました。会では先生方からいただいた「滝井病院のリニューアル」や「紹介患者さんへの対応」に関するご意見、ご要望に対し、岩坂壽二病院長と室田卓之地域医療連携室長が回答するなど、今後のさらなる連携に向けた活発な意見交換が繰り広げられました。また、懇談会終了後の懇親会では、和やかな雰囲気の中、登録医の先生方との親睦を深めました。

第15回肝臓病教室を開催

9月1日(土)午前10時30分から「肝臓病と緩和ケア」をテーマに、第15回肝臓病教室が、附属滝井病院南館7階会議室で開催されました。精神神経科の吉村匡史講師が「肝疾患と精神疾患」、看護部の文岡礼雅緩和ケア認定看護師が「緩和ケアとは～病気と上手につきあうために～」、薬剤部の久保悦子薬剤師が「モルヒネってどんなくすり?」とそれぞれ題して講演しました。41名の参加者は講師の分かりやすい説明に熱心に聞き入っていました。



真剣な表情で講演に聞き入る参加者

病 院

日本生命保険京橋支社で出張講演会

ユーモアを交えて講演する山本副センター長



10月23日(火)に日本生命保険京橋支社で「出張講演会」を実施しました。支社長をはじめ幹部職員と京阪沿線の京橋から守口市に勤務する営業担当の職員ら約260名が参加しました。講演に先立ち、事務担当者から平成28年オープン予定の新附属滝井病院の建設構想やユニークな診療科の取組みを紹介し、続いて心臓血管病センターの山本克浩副センター長が「**血圧、コレステロール、血糖は、なぜコントロールが必要か**」の演題で話しました。山本副センター長はユーモアを交えてわかりやすく解説し、会場は終始、和やかな雰囲気

に包まれました。また受講者の中には中高年齢層も多く、生活習慣病への関心が高い様子で、熱心にメモをとる姿があちこちで見受けられました。受講者から「大変役に立つお話しでした。今後は、日常生活の改善に努め、健康を維持していきたい」との感想も聞かれました。

香里病院

寝屋川市医師会との懇談会開催

寝屋川市医師会と香里病院との懇談会が10月13日(土)午後4時から香里病院8階会議室で開催され、医師会側から20名、当院から22名の参加がありました。早川貫治寝屋川市医師会長の挨拶を皮切りに、高橋延行地域医療連携部部長が座長を務め、内科の加藤孝太助教が「**アルコール性肝炎の1例**」、同科の谷村みゆき助教が「**高Ca血症と腎障害を呈した1例**」、乳腺外科の兼松清果助教が「**左乳癌術後38年で発生した対側乳癌の1例**」、内科の尾形誠助教が「**胸部画像読影**」と、それぞれ題して講演、その後は地域の先生から熱心な質問がありました。最後に高山康夫病院長の閉会の挨拶があり、盛会のうちに終了しました。



寝屋川市医師会との交流を深めた懇談会

日曜マンモグラフィー検診実施

10月はピンクリボン月間であり、各地で様々なピンクリボン運動が開催されました。その一環であるジャパン・マンモグラフィーサンデー(JMSプログラム)に香里病院も昨年に続き参加しました。10月の第3日曜日である10月21日に院内で乳腺外科の吉田秀行診療講師、兼松清果助教およびスタッフが中心となり、事前申し込みをされた16名の方を対象に乳がん検診を行いました。今年はマンモグラフィー併用検診に加えて昨年要望があったマンモグラフィー+エコー併用検診も追加しました。

受診された方に日曜日の乳がん検診について尋ねてみると、「マンモグラフィーからエコー、触診、総合診断と1日で検診結果まで分かるので受けて良かった」、「平日は仕事をしているので日曜日に検診ができて良かった」、「受けたと思っていた病院で乳がん検診ができてよかった」という意見がありました。また、「案内も親切で来年も是非受けたい」という意見もみられました。



ピンクリボン運動に参加したスタッフ



* ジャパンマンモグラフィーサンデー (JMSプログラム) とは…

子育て・介護・仕事・家事などで忙しく、平日に病院に行けない女性の皆様が、休日の日曜日に「乳がん検診」を受けられるよう、全国の医療機関とNPO法人J.POSHが協力して毎年10月の第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィー検査を受診できる環境づくりへの取り組みです。

市民公開講座に183名が参加

10月6日(土)午後2時30分から寝屋川市のアルカスホールで市民公開講座が開催され183名が参加しました。冒頭、高山康夫病院長が挨拶を行い、座長は埴本慎香里病院眼科講師・市民公開講座委員長が務めました。メインテーマを「注目される腎臓病『あなたの腎臓は大丈夫ですか?』」とし、内科の高橋延行准教授が「慢性腎臓病(CKD)のはなし」、寝屋川市市民生活部の特定保健指導担当の勝浦由紀子係長が「透析患者さんへの家庭訪問で見えてきたこと」、栄養管理部のスミス江利子管理栄養士が「慢性腎臓病の食事療法」と題しそれぞれ講演を行いました。

附属看護専門学校

◆8～10月の主な行事

日程	行事名	場 所
9月28,29日	学校祭	高殿学舎、医学部教養部学舎

輪を広げよう看祭～今、心をひとつに～ 附属看護専門学校祭開催

地域の人たちにぎわう会場



平成24年度の附属看護専門学校祭が9月28日(金)、29日(土)に開催されました。今年のテーマは「輪を広げよう看祭～今、心をひとつに～」で1日目は教養部体育館で球技大会が行われ、学生は爽やかな汗を流しました。2日目は高殿学舎において、茶道部の活動紹介やバザー、健康相談のブース、妊婦や育児、老人、車椅子を体験するコーナー、さらに「ちびっこコーナー」が設置されたほか、各種模擬店も開かれ、多数来場した地域の方々や学生保護者らに好評でした。また、高殿学舎での学校祭は今年が最後ということもあって、感慨深げに会場を見つめる教職員もいました。

寄稿

10月20日(土)に枚方、滝井の附属2病院でそれぞれ実施された災害訓練(12ページに関連記事)には、附属看護専門学校の学生たちが患者役として参加し、役を通して様々な学びを得ました。参加した学生の感想文を紹介します。

附属枚方病院の災害訓練に参加して

33期生(1年B組)



大規模地震を想定しての災害訓練が行われた。私は建設現場で足場から転落して受傷、意識はなく呼びかけにも反応しない重症の患者役だった。救急救命士の方が現場に到着すると、何処に何人いるのかを確認し、情報を共有しながら軽傷で歩行可能な患者から助けていた。意識を確認するのにとても大きな声で行っており、意識がないと確認した私にも「大丈夫ですか、頑張ってくださいね」という声掛けは止めなかった。2回目のトリアージを行い、バイタルサインを測定し、時間経過の中で患者の状態の変化を再確認していた。トリアージを行うことにより、一番命に危険がある患者を絞り出すことができる。そして生死をさまよう患者の命を優先し、一人でも多くの命を助ける事に繋がる。

トリアージで私は最も危険な赤であり、すぐに救急車で病院へと搬送された。救急車に乗降する際の揺れが想像していたよりも激しいものであり、急いで命を救おうとしている緊張感を感じた。病院に到着すると看護師に患者の情報を的確に伝え、看護師はその情報を他の看護師や医師に伝達しているのを見て、改めてこれだけ情報を共有することが大切かを感じた。災害が起き、一刻一刻と状況が変化する中で、医療者として患者の命を救うことはもちろん重要である。しかし、患者が運ばれてきた時に冷静に対処すること、得た情報から専門知識を最大限に生かすことが医療者の役割であると思った。

附属滝井病院の災害訓練に参加して

33期生(1年A組)



災害訓練に参加して感じたことは、医療職の厳しさである。私は腕や足に生々しい傷や打撲などにより青くなった皮膚、ガラスが突き刺さった友人の足を見て特殊メイクといえどもうろたえた。実際にこんな人達が崩壊した町で叫び、泣き、苦しむ中で冷静な判断ができるだろうか。医療職の屈強な精神力が身に沁みだ。また、患者の表情や状態、少ない情報の中からの的確な診断ができる技術と知識には身体が震えた。私達が授業で学んでいるバイタルサインは、患者の体内の状態を見極める大きな指標となり、ストレッチャーの構造を熟知することで、わずかな時間のロスも防ぎ搬送できる。そして何より、単独で行動していないこと、こ

れがチーム医療であると思う。普段からグループワークの授業が行われ、実習では仲間の大切さを痛感する。仲間と協力して成し遂げる授業が現場で活かされている。私は、あまり動けない患者役であったが、ストレッチャーの上で頭を動かして周囲を見ていると多くの学びや発見があり非常に有意義な時間となった。看護学校の1年生である今の私にできることは少なく、一つの命を救う事の大変さ、一つの命の重さを感じるばかりだった。しかし、将来あの場で生命の危険に脅かされた人々を助けている自分を想像すると、今励んでいる勉学に使命感と責任感を感じる。

卒後臨床研修センター

◆8～10月の主な行事

日程	行事名	場所
9月22日	eレジフェア	福岡国際会議場
10月27、28日	指導医養成講習会	ホテルコスモスクエア国際交流センター

九州で本学臨床研修をPR eレジフェア2012in福岡出展

eレジフェア2012 in福岡「医学生・初期研修医向け研修病院説明会」が9月22日(土)に福岡国際会議場で開催されました。卒後臨床研修センターでは、府外では初出展となるブースを開設し、出席した研修医3名は、本学での研修の良さを熱心に説明しました。来場者数は会場全体で625名、本学ブースへの来訪者は26名と小規模でしたが、幟旗と法被着用によりブース内には活気がありました。また、来場者に配付した大学名入りのミニ団扇と蛍光ペンは好評を得ました。

研修医3名が法被を着て本学について説明しました



幟旗が掲げられ、活気づく本学ブース

臨床研修指導医養成講習会に34名が受講

平成24年度の本学臨床研修指導医養成講習会が10月27日(土)、28日(日)の2日間(1泊2日)の日程で、大阪市のホテルコスモスクエア国際交流センターで開催されました。臨床研修指導医になるためには、厚生労働省が定めた指針に則った講習会を受講し、修了証書を得ることが必須条件で、この講習会もそれに沿った内容で実施され、研修協力病院の指導医5名を含む学内関係者34名が受講を修了しました。学外から卒後臨床研修評価機構の岩崎榮専務理事をディレクター、さらに高知医療再生機構の倉本秋理事長、関門医療センターの林弘人副院長をタスクフォースとして招聘し、ワークショップ形式での全体討議・グループワーク・ミニレクチャーが行われました。受講者は、臨床研修医の研修に対する教育指導の目標や評価法を理解し、そして基本的な臨床能力を備えた研修医を育成する力の習得に向けて、講演に聞き入るとともに、活発な議論を展開しました。

修了証書を手渡す金子一成(左) 臨床研修センター長



臨床研修医に対する教育指導の目標や評価法などについて学んだ講習会

平成25年度マッチング結果発表 本学で初のフルマッチ

平成25年春卒業予定の医学生と研修医受け入れ病院の両方の希望をコンピュータで突き合わせるマッチングの結果が10月25日(木)に発表され、本学は初めてフルマッチの結果となりました。研修医の大病院離れが進むなか、フルマッチとなった大学は、本学を含めて5校でした。定員に空きはありませんので、現在、二次募集は行っていません。

本学のマッチング結果は、次の通りです。

- ・附属枚方病院プログラム 定員40名
40名(本学出身者28名)
- ・附属枚方病院小児科重点プログラム 定員2名
2名(他学出身者のみ)
- ・附属枚方病院産婦人科重点プログラム 定員2名
2名(本学出身者2名)
- ・附属滝井病院プログラム 定員9名
9名(本学出身者8名)

同窓会

萩を旅して

— 教育者の醍醐味 —

同窓会理事 加賀 典雄(39回生)

昨年の晩秋に萩を訪ねました。日本海に面した萩は入り組んだ湾と高い丘や山に囲まれた小さな港町でした。町の中心部には現在もお毛利氏が治めた長州藩260年間の街並みが残り、古地図を片手に遺構や武家屋敷を訪ね歩くことで、江戸時代にタイムスリップさせてくれる、そんな雰囲気のある町です。

毛利氏は学問を重んじる伝統を持つことで知られ、藩校としての「明倫館」は日本三大学府のひとつです。「上に立つ者が教育により人間の道を教え導けば……国は大いに治まる」との孟子の言葉が明倫館の名称の由来であり、その教えは連綿として受け継がれ、幕末に多くの偉人を輩出したことでも知られています。

この地から江戸に向かうためには幾つかの峠を越え、山口盆地を抜け瀬戸内海に出て、現在の防府市から陸路、海路で上京していたようです。江戸への参勤交代の「御成り道」として整備された街道は「萩往還」と言われ、幕末には吉田松陰をはじめ多くの維新の志士達が時代の風となって駆け抜けた道です。

山陰の秘境とも思えるこの地から近代日本に関わる人達が多く育ったことを不思議に思うのですが、大切に保存されている町の遺構から、毛利藩が重視した学問に対する伝統を改めて知ることができます。

町外れには松陰を祀った松陰神社があり、その境内には質素な小舎、「松下村塾」がまさに松の木々の下に佇んでいました。松陰の墓の前に移築された、この木造瓦葺の平屋を垣根越しに覗き込んでいますと、山折哲雄氏の記述(危機と日本人)が、デジャ・ビュとして囚われ、忘我の境に誘い入れてくれます。「……狭い畳敷きの部屋の奥に人の気配が感じられ、塾生達の書を読む声が聞こえ、交わされる鋭い会話が空気を裂くように耳に響いてくるような錯覚を覚えた……」。

どこにでもあるような昔の粗末な民家でしたが、まさに変革の時代を生き抜いた人々の、とてつもないパワーを秘めていたことを思うと身震いを禁じ得ませんでした。



この、松下村塾では身分や階級の区別なく門下生を受け入れ、久坂玄瑞や高杉晋作、伊藤博文といった近代日本の原動力となった逸材を輩出しました。塾生であった木戸孝允は、松陰が卓越した教育者であったことを改めて知り、「国家の根源は教育にある」との信念から、時の総理大臣の地位を断り、自ら進んで文部卿(大臣)を務めたと言います。明治の人達は教育を国政のレベルを超えて大切にしていたことに感銘を深めました。

私事、母校の医局に籍を置いていた折に、今は亡き恩師が「臨床、研究、教育のいずれが欠けても良き医人たり得ない」と言っておられたことが思い出されます。

吉田松陰の残した名言、格言集を繙いていて、きわ



めて多くの言葉が、本年最大の話題である山中伸弥教授の誠実で思慮深い人柄から発せられる言葉と共通していることに気付かされます。突

き詰めればVision & hard workなのですが、その中において教授は「国を挙げてのご支援を頂いたお陰である」との礼節を欠かさず、しかもその真意は今後の更なる支援の要求とも取れ、そのユーモアも含めた「したたかさ」はさすがであると感心させられました。

しかし、このような発想と奇抜さ、大胆さに満ちた人物が生まれる風土は最近の日本には少なく、人材が育つという“教育のあり方”を問い直されているようにも思います。大学受験時の偏差値では関西医大は高く、きわめて優秀な学生さんが入学してきます。これらの原石は磨きようで、更なる真価を発揮することになります。情熱の注ぎ方によってはvisionを持たせることも、imaginationを展開することもできましょう。そしてよりhardに突き進ませることで、将来はノーベル賞候補を誕生させることも、あながち夢ではないように思われます。

来春には関西医科大学の新学舎が完成し、牧野の教養部、滝井の研究施設が統合されます。また、関西医科大学同窓会は創立80周年を、財団法人加多乃会は設立40周年を迎えます。本学1回生の川那部喜美子姉が創設された加多乃会は“母校の支援”を主旨として活動してきたことで、今日までに同窓生から多大な浄財を預かっております。財団法人の特異性からその用途は限られますものの、この浄財で大学のため最大級の支援をさせて頂いております。

一方、新学舎には同窓会フロアを設置して頂きます。これからは大学病院、学部とも同一敷地内にあり、同窓会を身近に接して頂ける「憩いのスペース」もできるでしょう。

本学は1928年、交野が原に大阪女子高等医学専門学校として産声をあげ、今日に至るまで輝かしい発展を遂げてきました。現状に満足することなく、更なる発展のためには関西医大に関わる教職員、医師をはじめすべての方々が、一丸となって切磋琢磨し“教育の現場”を高揚して頂かねばなりません。一方、大学に関わった者達は同窓会会員として大いに発言し、関わっていく責務があります。そのことこそが関西医大同窓生として世間に胸を張れることにもなるのです。



メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成24年8月1日～10月31日*判明分のみ)

吉内 佐和子 管理栄養士 (附属枚方病院)	NHK Eテレ 「ここが聞きたい名医にQ」 8月18日(土) 午後8時～8時45分	テーマは「まとめスペシャル狭心症」で、吉内管理栄養士はスタジオに出演し、心臓を守るための食事改善のポイントなどについて解説しました。
關 壽人 診療教授 (内科学第三講座)	プレジデント9月3日号	同誌の特集「発表！医師が選んだスーパードクター322人」の中で、關診療教授が肝臓がん分野で選出されました。
関西医科大学	毎日新聞、産経新聞 いずれも9月6日(木)	本学を含む阪神地区の7大学8学部が連携して地域のがん治療のレベルアップを目指す「がん教育基盤創造プラン」の調印式に関する記事が掲載されました。
木村 穰 教授 (健康科学センター)	朝日新聞デジタル 9月11日(火)	「自己観察によるダイエット」をテーマにした記事に関して、特徴や利点に関する木村教授のコメントが掲載されました。
河本 圭司 名誉教授 (脳神経外科学講座)	関西テレビ 「よ～いドン！」 9月14日(金) 午前10時～10時30分	番組の「となりの人間国宝さん」というコーナーで兵庫県尼崎市にある「シャレコーベ・ミュージアム」の館長を務める河本名誉教授が紹介されました。
永井 由巳 講師 (眼科学講座)	毎日新聞 9月30日(日)	「市民健康講座『目の勉強会』第21回講演会」(9月6日、大阪市北区民センター)で「加齢黄斑変性」をテーマにした永井講師の講演内容が掲載されました。
飯田 寛和 教授 (整形外科科学講座)	週刊ダイヤモンド 別冊 「よくわかる整形外科」 10月12日号	「人工関節の登録制度」を推進する内容の飯田教授のインタビュー記事が掲載されました。
中井 吉英 名誉教授、 神原 憲治 講師 (心療内科学講座)	「病院の実力 ころろ・ ストレス・認知症」 (読売新聞社発行) 10月17日号	同誌の中の「心療内科」の項目で、本学の診療に関する中井名誉教授と神原講師の記事が掲載されました。
長谷 公隆 診療教授 (整形外科科学講座)	NHK Eテレ 「ここが聞きたい名医にQ」 10月20日(土)、27日(土) 午後8時～8時45分	各回のテーマは「全身に悪影響！首の痛み」「首の痛みあなたの疑問に答えます！」で、長谷診療教授はスタジオに出演し、首の痛みの治療や予防法などについて解説しました。

このコーナーで紹介するのは、新聞は朝日、産経、日経、毎日、読売の5大紙、テレビはNHK、朝日、関西、毎日、読売の各テレビ局、主要な月刊誌、週刊誌等が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではございません。

お知らせ

附属枚方病院2年連続で大阪1位の評価

週刊誌「頼れる病院」ランキング

雑誌「週刊ダイヤモンド(平成24年10月27日号)」の特集「頼れる病院2012」で附属枚方病院が2年連続で大阪府第1位、全国1196病院の中で第5位にランキングされました。また、附属滝井病院が大阪府7位、香里病院が同60位に入りました。このランキングは、診療科目数や医師(専門医)、看護師、医療スタッフの配置数、さらには病床利用率や平均在院日数といった病院の運営状況など、全14項目の指標をポイント化し、総合得点で評価されるもので、ダイヤモンド社がアンケートや公表されているデータに基づいて評価したものです。

医学教育センターのWebサイトを公開

医学教育センターのWebサイトが完成しました。入り口は本学ホームページのトップ画面右側にある「医学教育センター」のバナーです。大学間交流行事や留学案内、各種学内の設備、自己学習の目標設定に関するページなど、情報が盛りだくさんの内容となっていますので学生の皆さん、ぜひ活用してください。

URL <http://www.kmu.ac.jp/cfme/index.html>

医学教育センターWebサイトのトップ画面▶



編集後記

寒さが厳しくなってきました。早いもので今年も残り1カ月です。皆さん、風邪など召されないようご自愛ください。

今、学内で専ら話題に上がるのが「新学舎」についてです。工事現場では建設用足場がすべて解体、外観の全容がお目見えとなり、移転の日が迫ってきました。昨年5月の起工式が、つい最近のことのように感じられ、時の流れの早さを実感します。

今号の表紙は滝井学舎南門付近です。滝井学舎の歴史は昭和34年に始まり、これまで53年間、学びの場として学生を支えています。この半世紀の時間の流れもあっという間だったのかもしれませんが。学生や教職員、そして卒業生の皆さんが何度も行き交ったこの場所も閉館まで残りわずか、いよいよ見納めの時を迎えます。あと4カ月、記憶に残るよう、しっかり目に焼き付けたいものです。

(起)

山中教授 ノーベル賞受賞おめでとうございます

京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥教授が2012年のノーベル生理学・医学賞を受賞されることになりました。山中教授は本学の客員教授でもあり、1学年の医学概論で特別講義をご担当いただいております。受賞にあたりまして本学としても大変喜ばしいことであり、心よりお喜び申し上げます。

関西医科大学は2013年4月、枚方市に新学舎を開設し「病態分子イメージングセンター」「疾患モデル動物センター」を立ち上げる予定で、学生教育及び研究拠点として新たなスタートを切ります。今後はさらに、iPS細胞を用いた病態解明の研究や、再生医療による治療法の開発に取り組んでいきます。

関西医科大学広報 Vol.19

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
TEL 06-6992-1001(代表)
FAX 06-6993-5221

<http://www.kmu.ac.jp/>
E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp
平成24年11月29日(木)発行